

甲子園への夢が絶たれ、肩を落とす幸福のエミール（中央左）とユニオール（同右）＝エイジエックスタジアム、永島理絵撮影



幸福のエミールとユニオール



時差13時間、距離にして1万3千キロ以上。はるばるドミニカ共和国から海を渡ってやってきた純朴な野球少年2人。その豪快なスイング、類いまれなパワーで見る人の心を躍らせた。

幸福の科学学園のエミール・プレンスとユニオール・ヌニエス。棚橋誠一郎監督と親交がある同校の特別コーチで元中日監督の森繁和さんがつないだ縁で、日本の「高校野球」の世界に飛び込んだ。

何もかもがこれまでと違う生活。

海を渡った野球少年
目指すはプロ、旅は続く

来当初の会話は翻訳機を通した。食事が合わず、体重も落ちた。規律を重んじる文化にも慣れず、遅刻を重ねたこともあった。

母国では、投げて、打って、走る、ぐらい。2人は戸惑った。「ドミニカの野球はこんなに細かくない」。まずはルール、基礎を教わることから。それでも2人は「素直な子」（棚橋監督）だから、野球も、日本語も、めきめき上達した。エミールは昨春から投手、ユニオールは昨秋から捕手に。今大会はそれぞれ背番号1と2を背負った。

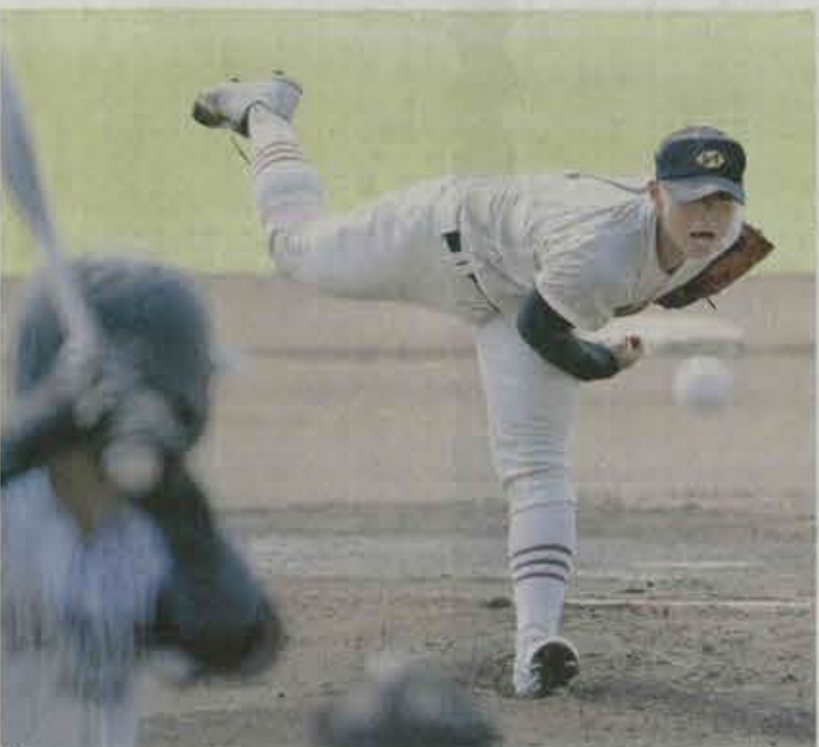
甲子園を目指した最後の夏は準々決勝で夢破れた。それでもエミールは「いつも楽しかった。日本の野球が好き」、ユニオールは「練習は厳しかったけど、日本の野球を学べてうれしかった」とすがすがしい。そして異国の地で苦楽を共にした2人は「特別な仲間」になった。

高校野球は終わりを告げた。だが2人には目指す次のステージがある。よどみない日本語で口をそろえる。

「プロになりたいです」

日本で白球を追う旅は終わらない。（鈴木航）

作新 危なげなく
幸福打線、意地の一矢



4回を6奪三振、1失点と好投した作新の先発・斎藤
＝エイジエックスタジアム、永島理絵撮影

▽準々決勝（エイジエック）
幸福 000 10
212 4x 111
作新 000 10
212 4x 111

【評】自慢の攻撃力をいかに発揮し、毎回得点の作新が幸福を五回コールドで退け、危なげなく4強入りを決めた。一回に菅谷の適時打などで2点を先制して主導権を握り、三回また

幸福は先発田中が相手打線につかまり、序盤から劣勢を強いられた。打線は四回に3連打で1点を返したが、後が続かず。二回に無死一、三塁で無得点だったのが痛かった。

作新学院・土井雄一郎（エイジエック）

（2試合連続複数打点となる5打点を挙げ）「目に見

○…幸福の科学学園との注目の一戦で、14安打、残塁4と走者をしつかり生かして大勝利した作新学院。酸漿園治主将は「いつも通りを意識しただけ」とひょうひょうと振り返った。3回戦を劇的な展開で勝ち上がった幸福という手に「主導権を握りたかった」（酸漿）という一回の攻撃。1死から連打と足を絡め、二、三塁で4番土井雄一郎は「まずは1点」と内野ゴロ。続く菅谷峻汰も適時打で2点を先制し、流れをつかんだ。主軸に強打者が並ぶだけに、エース斎藤奨真は「油断大敵」。伸び上がる直球を主体に、4回を1失点と最後まで崩れない強さを見せた。（エイジエック）

「調子は悪くなかったが、失投を見逃してくれなかった」と作新学院打線に毎回失点。攻撃も「ヒットは出たが、それをつなげられなかった」と悔やんだ。

学校史上最高成績にも「その上を目指していたの」と一言。「この経験を生かして強くなってる」と後輩に期待した。

「強豪の強さを感じた」

○…初の8強入りの勢いそのままに4強進出とはいかなかった幸福の科学学園。先登板した田中悠太郎主将は「強豪の強さを感じた」と完敗を認めた。

「調子は悪くなかったが、失投を見逃してくれなかった」と作新学院打線に毎回失点。攻撃も「ヒットは出たが、それをつなげられなかった」と悔やんだ。

学校史上最高成績にも「その上を目指していたの」と一言。「この経験を生かして強くなってる」と後輩に期待した。

甲子園懸け熱戦
全試合を速報
データも充実

下野新聞デジタル 検索

える4番としての仕事を果たせたと。チャンスを自分に戻してくれる仲間のためにも、この調子で続けたい」